

函館周辺海域の海藻に関する市民講座

「陸の森・海の森 ～道南の豊かな自然と海中林の役割～」

主催 海藻サークル 海洋教育部門

共催 一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構

第一回

陸の森・海の森を 知る(7/30 13:00～)

函館市国際水産・海洋総合研究
センター 大会議室

第二回

陸の森・海の森を 見る(11/19 午前中～)

八雲町 遊楽部川周辺

第三回

陸の森・海の森を 伝える(12/17 10:00～)

函館市国際水産・海洋総合研究
センター 実習室

総合司会
高原英生



1982年京都市生まれ。2010年北海道大学水産科学博士。アニサキスのスルメイカへの寄生の研究で学位取得。その後、水産庁でスルメイカの資源量調査やイカ釣り漁船の集魚灯、エチゼンクラゲの来遊量予測の研究を行う。2017年2月より現職。学生時代から海洋教育に興味を持ち、水産科学の面白さを出前実験で伝える団体を立ち上げ、活動を行っていた。

CHAKO
DATE
www.chako.com
from Hakodate

このQRコードを読むと、メール
画面がたちあがります



第二回、第三回目の講座の前に連絡事項がありますので
メールアドレス(携帯メール可)をお持ちの方に限らせていただきます。
1年で全3回の講座が受講できます。受講料(3回分) 一家族 1500円
定員:50名(先着順)

お問い合わせ・お申込み sea_hakodate@yahoo.co.jp

2017年度日本海洋学会青い海助成事業の助成を受けています

第1回(7/30) 陸の森・海の森を知る ★講師紹介

1. 陸の森から海へ(川とサケ)

北海道大学大学院 水産科学研究院
准教授 工藤秀明 博士(水産学)

1968年札幌生まれ。専門は魚類生理学。

船に憧れて北大水産学部に入るも
「サケ」に取り憑かれ生物系に転身。

大学院では「サケの嗅覚」の研究で

学位を取り、福岡の医科大学

の人体解剖学の教員と

なる。11年前、サケのよう

に「母川」に戻る。最近

は自然に近いサケふ化放流

事業を目指し模索中。



2. 海の森(海藻) 水産・海洋コーディネーター 北川貴子



海藻おしば・海藻万華鏡を通して
海のことを皆さんに知って
もらおうと日々努力しています。

海藻はカラフルで美しいだけで
はなく、この地球を守る大切な
役割を持っています。

海藻サークル

海洋教育部門リーダー



4. 海の生態系 (イルカ)

北海道大学大学院
水産科学院

松田 純佳 (博士課程)

1988年生まれ。幼い頃から海の傍

で暮らし、海の生き物に興味を持ち、

北海道大学水産学部に入學。津軽

海峡での鯨類目視調査や、漁網に迷い込ん

でしまったイルカの調査などに参加してきた。

浜辺に打ち上った死んだ鯨を解剖し、何を

食べていたかを研究している。

3. 海の生態系(イカ)

函館頭足類研究所 所長 桜井泰憲
(水産学博士・北海道大学名誉教授)



函館のまわりの海には、どんなイカが

いるか紹介します。みなさんが良く

知っているスルメイカ(マイカ)は、6月

から12月、ヤリイカは11月から5月そし

てマメイカと呼ばれるジンドウイカは

連休前後に「煮つけイカ」

として食べられています。

私が持っているソデイカ

も時々浜に打ち上げられ

ますが、まだまだいます。

5. 海を安全に 楽しむために (ロープワーク)

水産・海洋コーディネーター

松井良春(海藻サークル)

1951年 函館市に生まれる。昭和

44年北海道大学水産学部練

習船おしよろ丸に勤務、平成23

年退職。42年間に航海した距離

は約110万Kmで北は北極海から南はオース

トラリア・東はオレゴン州で西はインド洋まで、

地球を約43周したことになります。現在は、た

だのジージです。



第2回 (11/19)

陸の森・海の森を見る

∞サケの専門家、工藤先生と行く∞

ゆうらっぷがわ

遊楽部川周辺の自然観察

※自然観察は天候その他の状況によって変更に
なる可能性があります。

陸の森・海の森のつながり

(海藻の話・海藻万華鏡作り)

北海道大学(函館市港町3-1-1)

正面玄関よりバスで、

八雲の遊楽部川へ移動



第3回 (12/17)

陸の森・海の森を伝える

まとめのポスター作り

海藻おしば作り(1月初旬に郵送)

講師 北川 貴子



※2018年度春季海洋学会で発表予定